

新しい左京区基本計画づくり



ニュースレター 第5号

発行日 平成21年12月7日
発行者 左京区役所区民部総務課
Tel 771-4235

第2回 次代の左京まちづくり会議 を開催しました！

左京区役所では、平成13年1月に策定した左京区基本計画が、平成22年12月に終了するため、次期左京区基本計画の策定に取り組んでいます。

11月10日に左京区役所において、第2回の「次代の左京まちづくり会議」を開催しました。

会議には、京都府立大学生命環境学部准教授の宗田好史（むねた よしふみ）座長をはじめとして13名の委員が出席し、次期左京区基本計画の策定に向けて、「左京区の魅力、課題」と「左京区のまちづくりの取組指針」について確認した後、活発な意見交換が行われました。

● 次期左京区基本計画の策定に向けて ●

※意見交換のための資料より抜粋

◆左京区の魅力、課題を3つの分野に分けて議論を深めます◆

これまでの次代の左京まちづくり会議、左京区住民円卓会議、新たな左京区基本計画策定に向けての意見募集の結果などでの意見をもとに、左京区の魅力・課題を3つの分野に分けています。

また、今後より具体的な検討を進めていくため、各分野に以下のとおり項目を設定しています。

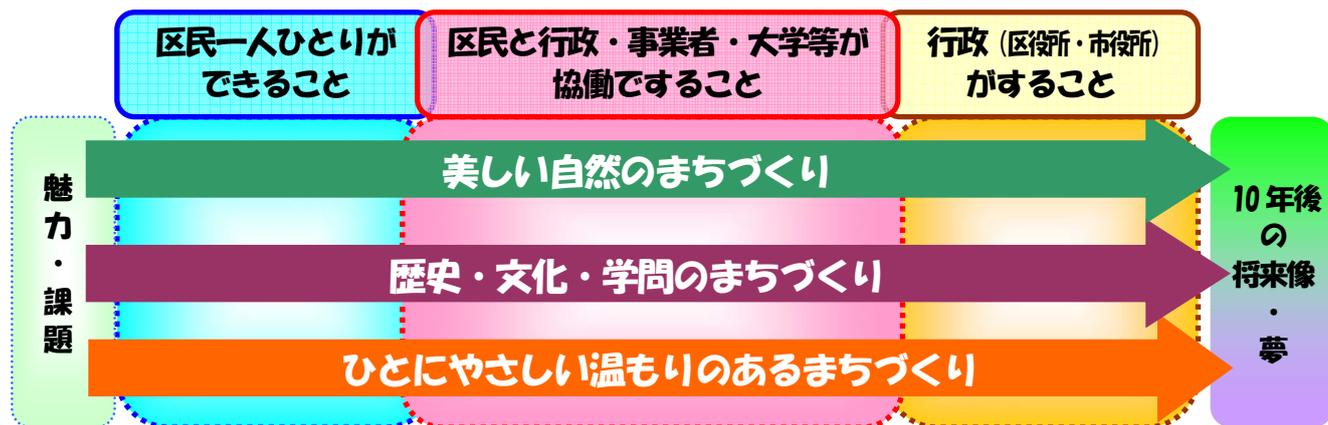
左京区の魅力、課題の3分野・15項目

美しい自然のまちづくり	歴史・文化・学問のまちづくり	ひとにやさしい温もりのあるまちづくり
<ul style="list-style-type: none">●自然環境●まちの美化●歩きやすいまち●自然との調和・景観・都市基盤整備●防災・消防	<ul style="list-style-type: none">●歴史資源・文化財●伝統行事・伝統文化●国際交流・観光●文化・芸術●大学のまち	<ul style="list-style-type: none">●子ども●高齢者●障害者●市民参加●交流・共生

◆「区民の皆様との協働による取組」の視点を踏まえて検討します◆

次期計画の取組指針、取組事項の検討にあたっては、行政だけでなく、区民の皆様にご協力いただけること、区民と行政・事業者・大学等の協働による取組の視点を踏まえて検討します。

左京区のまちづくりの取組指針



● 意見交換の内容 ●

美しい自然のまちづくり

●豊かな自然環境が特に左京区を中心とした京都の魅力である。前回の会議でも印象的であった

「自然を愛でる心」に左京区としては力を入れていくべきだと思う。

- 日本人は家の中に花を飾ることで自然を感じてきた。左京の人は大文字山などの周辺の山々を借景としてとらえるなど、**緑を身近なものとして親しむ心**を持っている。
- 緑豊かな左京と言っても林業が衰退している。緑を守り伝えるには、まずは**林業を復興させることが重要**である。林業で間伐を行うことによって、木が育ち、山全体が育ち、さらには鳥獣被害もなくなる。
- 左京区は南北に細長く、南部では都市化が進む一方、北部では高齢化が進んでおり、一括りで扱うことは難しい。区全体を今後どうするかを考える場合は、**南北をゾーンの的に考え、南北の交流を促すことが重要**である。
- 自然を愛でるという観点からは、**北部と南部の交流がひとつのテーマ**になる。例えば、花背山の家や山村都市交流の森で木工教室やハイキングを体験することが雪かきボランティアなどにつながっていくだろう。
- 自然を守るために、南北の交流を促すことは大切である。ただ、**交通アクセスの不便さなど、南部地域に比べて北部地域には課題が多い**。
- 花背小中一貫校の新校舎が完成した。**自然の中のすばらしい学校を地域の魅力としてアピールし、多くの方に暮らしてもらいたい**。そのためには**道路整備やデジタル放送対応などインフラ整備も課題**である。
- 左京区は中南部にも緑が多い。**身近に自然があるのに「自然を愛でる心」を忘れてしまっている**。生活で自然の木や水を使うことがなければ長続きしないだろう。イベント的なものではなく、**いかに長期的に精神的に地域と結び付いていくかが重要**である。
- 山村都市交流の森や花背山の家などの素晴らしい施設を今後更に活用していくためには、子どもだけでなく、学生から中高年まで楽しめるように**交流の幅を広げていかなければならない**。
- 丸太町通の銀杏並木は紅葉の頃になると大変美しいが、色づく前に剪定されてしまう。信号を見えやすくしたり、落葉の清掃の問題はあるが、**子ども達に四季の移り変わりを見せるためにもう少し考えてはどうか**。
- 左京区には大文字をはじめとする豊かな自然や歴史や文化の様々なエッセンスがつまっており、11行政区の中でも一番であると思う。それらを**区民の人々に広く意識し認識してもらうことが大切**である。
- 自然を愛でる取組について、大学生が果たせる役割を考えると、「**精神的に結びつく必要がある**」というところにあると思う。
- 行政の役割は、市民の暮らしの中でどこかに力を入れることで、市民生活全体が円滑に進んでいくようにすることである。そのため、計画策定にあたっては、まずは**行政としてどういうことができるか、どのポイントに力を入れるか**を示していかなければならない。



歴史・文化・学問のまちづくり

●左京区について教える場所が身近に必要なと思う。学校の知識としてではなく、**子どもの日常生活に歴史文化や自然を取り込むべき**である。そのためには、地域の伝統文化や自然等について**行政との協力や大学との連携も含めて組織的に取り組む必要がある**。

- まず、**区民自身が左京区の身近なところに興味を持つ必要がある**。そのために、例えば公共の教育施設の入場料金を左京区の子どものみであれば割安にするなどの取組をしてはどうだろうか。
- 地元の祭は年配の方が熱心に取り組んでおられるが、子ども達がいけないために廃れつつある。最近の子どもは塾通いがあるかもしれないが、せめて**地域の行事には参加できるような仕組み**が欲しい。
- 左京区は新しい住民の方が多く、地域の行事との関わり方がわからない。**組織的に新しい住民の方に参加を呼びかけていくことも大切**である。
- 左京区では、**大学と地域の連携**を熱心に行っており、**大学への働きかけが重要**である。

ひとにやさしい温もりのあるまちづくり

- 今回の資料の中で、**左京区では地域の福祉の取組が非常に進んでいる**とのアンケート調査結果があった。私自身、地元で社会福祉協議会を立ち上げ、**顔の見える人間関係づくりを考えながら活動を続けてきた**。今年度からは高齢者への取組に加えて、障害者の方に対する活動も行っている。その成果が区民の皆様にも伝わっていると思うと大変嬉しい。

